

DRUG



INFORMATION

2009 No. 12

平成21年6月1日発行

メトホルミン塩酸塩を服用中のヨード造影検査は禁忌です！

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)



メトホルミン塩酸塩を服用中のヨード造影検査は禁忌です！

〔 造影剤投与 2 日前～2 日後までのメトホルミンの投与を中止し、検査後に腎機能が正常であることを確認してから投与を再開して下さい。 〕

メトホルミン塩酸塩※につきましては、従来より添付文書に「ヨード造影剤との併用に注意すること」と記載されておりましたが、2009 年 5 月の添付文書改訂により、両剤の併用は禁忌とされることになりました（次頁参照）。

※ メトホルミン塩酸塩の岐大病院採用品目

メルビン錠 250mg（院内、院外）

メデット錠 250mg（院外のみ）

メトホルミン塩酸塩を含むビグアナイド系糖尿病薬(BG 薬)は、主に肝臓でのシェウ酸からの糖新生を抑制することで血糖を低下させますが、その結果乳酸が増加します。腎障害がある場合には本剤の排泄が遅延し、過量投与と同様となるため、乳酸アシドーシスの発現に注意する必要があります。また、ヨード造影剤投与により腎機能が低下した場合にも BG 薬の腎排泄が減少して乳酸アシドーシスが発現すると考えられます。

ヨード造影検査時には、該当患者がメトホルミン塩酸塩製剤の服用中であるかどうかの確認を必ず行い、検査を行う場合は本剤の投与を一時中止していただくようお願い致します。なお、国内および海外のガイドラインでは、ヨード造影剤を用いて検査を行う際のメトホルミンの中止、再開のタイミングを下記のように推奨しています。これらから、(現時点においては)造影剤投与 2 日前～投与 2 日後までのメトホルミン投与を中止し、検査後に腎機能が正常であることを確認してからメトホルミンの投与を再開して下さい。

国内	ヨード造影剤使用前 2 日間は用いるべきではない。
海外	<u>造影検査前の腎機能（血清クレアチニン）が正常</u> 造影剤投与時～48 時間後までのメトホルミンの投与を中止する。 腎機能が正常であることを確認してからメトホルミンの投与を再開する。 <u>造影検査前の腎機能（血清クレアチニン）が異常*</u> 造影剤投与 48 時間前～投与 48 時間後までのメトホルミンの投与を中止する。 投与 48 時間後に腎機能に変化がないことを確認してからメトホルミンの投与を再開する。

*国内では投与禁忌

禁忌（次の患者には投与しないこと）

- (1) 次に示す状態の患者〔乳酸アシドーシスを起こしやすい。〕
- 4) ヨード造影剤（イオパミドール、イオヘキソール、イオメプロール等）を用いて検査を行う患者〔「相互作用」の項参照〕

相互作用**(1) 併用禁忌（併用しないこと）**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
<u>ヨード造影剤</u> <u>イオパミドール</u> <u>（イオパミロン）</u> <u>イオヘキソール</u> <u>（オムニパーク）</u> <u>イオメプロール</u> <u>（イオメロン）</u> 等	<u>併用により乳酸アシドーシスを起こすことがある。ヨード造影剤を用いて検査を行う場合は、本剤の投与を一時的に中止すること。</u>	<u>腎機能が低下し、本剤の排泄が低下することが考えられている。</u>

下線部：改訂箇所